

令和4年度第2回南房総市地域公共交通活性化協議会

(兼地域公共交通会議) 議事要旨

日 時：令和4年8月10日（水） 15：30～16：05

場 所：南房総市役所別館1 大会議室

参 加 者：委員19名（別添委員名簿参照、6名欠席）
：南房総市 企画財政課長・同地域振興係長及び係員

議 事：

1. **【協議第5号】市営路線バス富浦線の実証運行について**

事務局より、市営路線バス富浦線の実証運行について提案を行う。

市営路線バス富浦線については、前回の会議にて3つのご提案をしている。

市営路線バス富浦線は、富浦地区の八東地域を中心に交通空白地域を運行し、平日は、スクールバスの機能を持ち合わせ、土休日は観光施設等を循環するバスタくんとして運行している市営路線バス。

今回の提案の一つ目は、お買い物需要の検証のため、商業施設への運行ルートの実証運行について検証を行うもの。

現在、富浦地区には生鮮食品を取り扱うスーパーが存在せず、食品類の購買に苦慮している人がいる。そこで、隣市のスーパー等まで富浦線の延長によりお買い物需要を確認するため、実証運行を行うもの。

まず一つ目の行き先として、カインズ館山店を設定。こちらは、日用品などを販売している大型店舗で、近隣には、生鮮食品を扱うスーパー、ドラッグストアや衣料品販売店などがある。また、6月1日からスタートした館山市の循環バスも乗り入れており、駐車場スペースも含め比較的施設側にも受け入れやすい環境が整っている。運行は、平日の第1便のみ設定。第1便の運行ルートを時刻通り運行したあと、元気倶楽部の8時49分発、デマンド運行で大房岬に行く場合は、9時10分に出発し、国道127号館山バイパスを通り、カインズ館山店を目指す。この提案①資料の図面では、黄色の点線にて示してある。予定時刻は、カインズ館山店に、9時4分頃から9時25分頃の間。その後、出発時刻を何れも10時とし、同じルートで帰路につき、元気倶楽部に概ね10時15分頃の到着となる。ご利用のお客様には、第2便の始発時刻までの間に各停留所に降車を予定。

次に二つ目の行き先として、おどや船形店を設定。こちらは、生鮮食品等を取り扱うスーパーで、駐車場が広くなくバスの乗り入れが難しい状況。そこで、旧国道の県道302号館山富浦線を運行するルートを設定し、乗降場所については、館山市内線のバス停が100mほどの距離間にあるので、そちらを利用する。こちらについては、日東交通様の了承を得ている。運行は、カインズ館山店行きと同様に平日第1便、これまでの通常ルートを運行後、元気倶楽部を起点におどや船形店に向う。この資料の図面では、緑の点線で示してある。帰りの時間はバス停発9時50分に設定し、利用者の帰りのルートは、先ほどと同様となる。

また、運行に関する確認事項として、富浦地区外を運行する場合は、乗降場所の確保や路線延長の趣旨から目的地以外の乗降はできないこととする。

次に運賃については、通常運賃の大人1回200円とする。運行日は、平日のみのデマンド運行とし、お買い物便は週4日の設定。提案した2か所を週2回ずつの運行とし、月・火は、おどや船形店、木・金はカインズ館山とする。なお、水曜日・土曜日・日曜日及び祝日は運休となる。どちらの需要があるのか、アンケートを実施する予定。

また、(配布資料の8ページ参照) 館山市域を運行するため、館山市の公共交通会議において協議が調ったことを証する書類を添付。今後のスケジュールは、本日の交通会議ののち、千葉運輸支局へ変更申請を行い、今年10月からの実証運行スタートを目指す。広報活動として、(4ページ参照) チラシ案を富浦地区の乗車可能エリアの世帯に対し、全戸配布にて周知を行っていく。

資料2ページの提案2、3ページの提案3については、前回会議の説明内容から変更なし。

質疑等

◎運賃はどのように払うのか。例えば大津からカインズ館山まで行った場合はいくらになるのか。

⇒運賃は片道1回200円。下車時に支払う。そのため、往復利用は、400円となる。

⇒承認済み

2. **【報告第2号】南房総・館山地域公共交通活性化協議会について**

事務局より、南房総・館山地域公共交通活性化協議会についての報告。

令和4年度の実施事業のうち2つの実証運行について現状報告。一つ目は、平群線エリアの実証運行。こちらは、これまで2年間実証運行を行ってきたが、今後の本格運行を見据えたAIオンデマンドシステムを活用したフルオンデマンドバスの実証運行を予定。運行エリアは、平群線の沿線ほか、三芳地区並びに館山市の館野・九重地区の一部を含めたエリアとなる。運行期間は、今年10月から翌年3月31日まで、週5日の日中帯を運行し、電話及びスマートフォンアプリを活用した予約制の運行となる。また、エリア外の目的地としてイオンタウン館山及びJR館山駅を設定し、直接目的地に行ける環境を残しつつ、乗車場所を自宅から近いゴミステーションくらいの場所から乗車できるよう取り組む。運行事業者は、鏡浦自動車様に委託する。また、システムについては、株式会社アイシン様に委託する。鴨川市の長狭地区で「チョイソコ」ブランドを展開中。

こちらの事業は、千葉県の補助事業「新モビリティサービス導入推進事業補助金」を活用して実証運行に取り組む。

もう一つは、豊房線の再編として、買い物シャトルサービスの実証運行に取り組む。館山市の豊房地区を中心に、エリアを3つに分け、曜日運行により尾張屋館山本店やおどやスーパーセンター館山店などを目的地としたお買い物需要の検証を行うもの。当市のエリアでは、館山市に隣接する白浜地区の川下地域、千倉地区の大貫地域などが運行エリアに含まれる。こちらは週1回ずつ、時間を設定してワゴン車で運行する計画となっている。運行期間は、リース車両の納品後、11月下旬に運行開始し、翌年3月31日までを予定。

こちらの事業は、千葉県の補助事業「持続可能な地域公共交通の確保支援事業補助金」を活用して実証運行に取り組む。

質疑等なし

⇒承認済み

3. その他

①高齢者支援課よりお知らせ（配布資料なし）

⇒8月1日より南房総市丸山地区のタクシー事業者が休業になったことから、丸山・和田地区のタクシー利用に苦慮している人が出てきている。特にワクチン接種用にタクシー助成券を発行しているが、利用できない事象が発生している。そのため、市社会福祉協議会で実施している「ボランティア移送サービス」による特例利用を検討していることをお知らせいたします。

◎ワクチン接種支援タクシー利用助成券の受給者のうち、タクシーの手配ができない人に限り、当該サービスにより移動支援を行うもの。

今後、地域内のタクシー事業者に個別にご説明するとともに受給者には個別に連絡する予定。

②事務局より説明

◎路線バス「白浜千倉館山線」に係る乗降調査結果」の報告

⇒白浜千倉館山線は、平成31年3月に従来の千倉線、白浜千倉線を統合し、安房白浜から千倉駅を經由し、館山駅までを1日5往復、その他千倉駅から安房白浜まで6往復している路線バスで、令和3年度の実績は合計で約6万人の利用があった。しかしながら他路線同様、利用者減少や利便性の低下も懸念されることから、このたびダイヤ改正を検討している。そこで、7月中旬には平日5日間にわたり全便の乗降調査や利用者アンケートを実施、その結果をまとめたものが配布資料となる。主な実績では、館山駅、千倉駅、安房白浜駅が多く利用がいたものの、2市を跨ぐ利用、安房地域医療センターの定期利用、千倉駅から白浜方面への高校生の利用などが見られた。今後、ダイヤ改正に向けて、運行事業者の日東交通や館山市と一緒に継続的に協議を行っていく。

③委員からの報告等：

◎JR館山駅より近況報告

⇒7月28日にプレス発表にて利用が少ない線区の収支状況等が公表された。館山から勝浦の間、久留里線の久留里から亀山の間が対象となったが、詳細は、ホームページをご覧ください。今回は現状を開示したまでだが、今すぐにどうなるかというわけではない。今後、人口減少もあるが、利用状況も減少している。南房総市観光協会や館山市商工会議所などと観光業を盛り上げていこうとしている。当社でも地域と一緒に県も含めて旅行業の活性化を考えていきたい。お客様の流動として来ていただくための策を考えている。8月8日の館山の花火イベントで約3,000人の鉄道利用がみられた。活性化に向けた一つの取組として今後の参考にしていきたい。

⇒先日、第一四半期決算のプレス発表があったが、3年ぶりの黒字。GWが好調だった。

⇒8月10日より駅レンタカーで電動バイクのレンタル開始。二次交通の課題解決に少しでも繋げていきたい。